

令和6年度8月期

総合学力試験

標準的参考文献

神戸大学大学院
経営学研究科

第 1 群

経 営 管 理

- (1) Burrell, G. and G. Morgan (1979), *Sociological Paradigms and Organisational Analysis*, Heinemann. (野中郁次郎・金井一頼・鎌田伸一訳『組織理論のパラダイム』千倉書房, 1986年)
- (2) Douma, S. and Schreuder, H. (2002), *Economic Approaches to Organizations, 3rd Edition*, Pearson. (丹沢安治・岡田和秀・渡部直樹・菊澤研宗・久保知一・石川伊吹・北島啓嗣訳『組織の経済学入門 (第3版)』文眞堂, 2007年.)
- (3) Latham, G. (2007), *Work Motivation: History, Theory, Research and Practice*, Sage Publication. (依田卓巳訳・金井壽宏監訳『ワーク・モチベーション』NTT出版, 2009年.)
- (4) Miner, J. B. (2015), *Organizational Behavior 1: Essential Theories of Motivation and Leadership*, Routledge.
- (5) Perrow, C. (1972), *Complex Organizations: A Critical Essay*, Foresman and Company. (佐藤慶幸訳『現代組織論批判』早稲田大学出版部, 1978年.)
- (6) Schein, E. H. (1980), *Organizational Psychology, 3rd Edition*, Prentice-Hall. (松井賚夫訳『新訂 現代心理学入門 組織心理学 (原書第3版)』岩波書店, 1981年.)
- (7) Scott, R. S. (1995), *Institutions and Organizations*, Sage Publications. (河野昭三・板橋慶明訳『制度と組織』税務経理協会, 1998年.)

経 営 制 度

- (1) 上林憲雄 編著『人間と経営 ―私たちはどこへ向かうのか―』(経営学史叢書第Ⅱ期③ 人間性) 文眞堂, 2021年。
- (2) 上林憲雄ほか『経験から学ぶ人的資源管理 (新版)』有斐閣, 2018年。
- (3) 上林憲雄・庭本佳子 編著『経営組織入門』文眞堂, 2020年, 第1章, 補章。
- (4) 平野光俊・江夏幾多郎(2018)『人事管理一人と企業、ともに生きるために』有斐閣。
- (5) ジョン・ブラットン, ジェフリー・ゴールド著, 上林憲雄他訳『人的資源管理―理論と実践―(第3版)』文眞堂, 2009年。(John Bratton and Jeffrey Gold, *Human Resource Management: Theory and Practice*, 3rd edition, 2003.)
- (6) 藤本隆宏『生産マネジメント入門 I』日本経済新聞出版社, 2001年, 第3章。
- (7) 藤本隆宏・西口敏宏・伊藤秀史編『サプライヤーシステム』有斐閣, 1998年。
- (8) 原拓志・宮尾学編著『ベーシックプラス技術経営』中央経済社, 2017年, 第7章, 第9章～第11章。
- (9) 藤本隆宏・クラーク K.B. 『【増補版】製品開発力―自動車産業の「組織能力」と「競争力」の研究』ダイヤモンド社, 2009年。(Clark, K.B. & Fujimoto, T. *Product development performance: Strategy, organization, and management in the world auto industry*, Harvard Business School Press, 1991.)
- (10) ウォマック, J.P., ルース, D., ジョーンズ, D.T. 著, 沢田博訳『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。―最強の日本車メーカーを欧米が追い越す日』経済界, 1990。(Womack, J.P., Jones, D. T., & Roos, D. *The machine that changed the world: The story of lean production*, Rawson Associates, 1991.)
- (11) F・アマトーリ, A・コリー著, 西村成弘・伊藤健市訳『ビジネス・ヒストリー―グローバル企業誕生への道程―』ミネルヴァ書房, 2014年。(Franco Amatori & Andrea Colli, *Business History: Complexities and Comparisons*, Routledge, 2011.)
- (12) 安部悦生・壽永欣三郎・山口一臣・宇田理・高橋清美・宮田憲一『ケースブック アメリカ経営史 [新版]』有斐閣, 2020年。

決 定 分 析

ゲーム理論の基礎的知識を問います。代表的な参考書には次があります。

- (1) Kreps, D., *Microeconomic Foundation II: Imperfect Competition, Information, and Strategic Interaction*, Princeton University Press, 2023.
 - Appx.9 Strategic-Form Games
 - Appx.10 Extensive-Form Games
 - Appx.11 Subgame perfection (and Credibility)
 - Appx.12 Beliefs and Sequential Rationality
 - Appx.13 Common Knowledge and Games of Incomplete Information
 - Appx.14 Forward Induction, Strategic Stability and Beliefs-Based Refinements
 - Ch.18 Cournot and Bertrand
 - Ch.20 Private Information Part I: One-shot Interactions
 - Ch.21 Private Information Part II: An Introduction to Dynamics
 - Ch.23 Bilateral Bargaining
 - Ch.24 Auctions
 - Ch.25 Matching Markets
 - Ch.26 Mechanism Design
- (2) Maschler, M., Solan, E., and Zamir, S., *Game Theory, Second Edition*, Cambridge University Press, 2020.
 - Ch.4 Strategic-form games
 - Ch.5 Mixed strategies
 - Ch.7 Equilibrium refinements
 - Ch.8 Correlated equilibria
 - Ch.9 Games with incomplete information and common priors
 - Ch.10 Games with incomplete information: the general model
 - Ch.12 Auctions
 - Ch.23 Stable matching

財 務 会 計

- (1) 桜井久勝『財務会計講義（第25版）』中央経済社、2024年。
- (2) 佐藤信彦・河崎照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史（編著）『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ（第17版）－基本論点編』中央経済社、2024年。
- (3) 佐藤信彦・河崎照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史（編著）『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ（第17版）－応用論点編』中央経済社、2024年。
- (4) Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, and Terry D. Warfield. 2020. *Intermediate Accounting IFRS* 4th ed. Wiley.
あるいは、これらと同等の内容を含む財務会計・財務諸表論の教科書

会 計 制 度

- (1) 鈴木一水『税務会計分析－税務計画と税務計算の統合－』森山書店 2013年。
- (2) 橋本尚・山田善隆[2022]『IFRS会計学基本テキスト（第7版）』中央経済社、第2章第3-6節、第3章第2, 4, 5, 6, 9, 11, 13, 14, 15節。
- (3) 新日本有限責任監査法人 河野明史・腰原茂弘・田邊朋子編著[2016]『完全比較 国際会計基

準と日本基準（第3版）』清文社，第4-5章，第9-11章，第13章，第16-22章，第25-28章，第39章。

- (4) 企業会計審議会「監査基準(2020年11月改訂)」 「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準(2023年4月改訂)」 「四半期レビュー基準(2019年9月改訂)」 「監査における不正リスク対応基準(2013年3月)」 「監査に関する品質管理基準(2021年11月)」及びこれらの前文
- (5) 伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏『ベーシック監査論(九訂版)』同文館出版2022年。

管 理 会 計

- (1) Horngren's Cost Accounting: A Managerial Emphasis 17th Edition Global Edition / Srikant M. Datar, Madhav Rajan : Pearson ,2020 ,ISBN:129236307X
- (2) Merchant, K and W. Van der Stede, 2017. Management Control Systems 4th Edition (4th Edition), Pearson. (ISBN-10: 1292110554)
- (3) F. G. H. Hartmann, k. Kraus, and G. Nilsson, Anthony, R. N., V. Govindarajan, 2020. Management Control Systems, 2e, McGraw Hill Higher Education, UK版. (ISBN-10: 1526848317)

マ ー ケ テ ィ ン グ

- (1) 高嶋克義 『現代商業学(新版)』有斐閣，2012年
- (2) 高嶋克義 『現代マーケティング論』有斐閣，2008年
- (3) 鈴木安昭・田村正紀 『商業論』有斐閣，1980年，第2章，第5章
- (4) 丸山雅祥 『日本市場の競争構造』創文社，1992年，第2章
- (5) 風呂勉 『マーケティング・チャネル行動論』千倉書房，1968年，第4章
- (6) 高嶋克義 『マーケティング・チャネル組織論』千倉書房，1994年，第1章，第2章
- (7) 高嶋克義・南知恵子 『生産財マーケティング』有斐閣，2006年，第6章
- (8) 田村正紀 『マーケティング行動体系論』千倉書房，1971年，第1章，第2章、第4章
- (9) 池尾恭一他『マーケティング』有斐閣 New Liberal Arts Selection, 2010年，第4章，第6章
- (10) 栗木 契 『リフレクティブ・フロー』白桃書房，2003年，第3章
- (11) 小川 進 『イノベーションの発生論理』千倉書房，2000年，第1章
- (12) 石井淳蔵 『マーケティングの神話』岩波現代文庫，2004年，第6章
- (13) 南知恵子 『リレーションシップ・マーケティング』千倉書房，2005年，第1章，第5章
- (14) 黄 リン 『新興市場戦略論』千倉書房，2003年，第2章
- (15) Kotler, P., Keller, K, and Chernev, A, *Marketing Management*, Global Edition, 16th edition, 2021 ※KIMAP 学生は(15)の文献を参考にしてください。

フ ァ イ ナ ン ス

Danthine, J., and Donaldson, J. B., *Intermediate Financial Theory* (3rd Edition), Academic Press, 2014, Chapter 1~14.

市 場 経 済 分 析

- (1) Varian, H.R., *Microeconomic Analysis* (3rd ed.), Norton, 1992.
- (2) 奥野正寛ほか、『ミクロ経済学演習 第2版』、東京大学出版会、2018年

第2群

数学的方法論

- (1) A. C. チャン、K. ウェインライト (著), 小田 正雄、高森 寛、森崎 初男、森平 爽一郎 (翻訳) 『現代経済学の数学基礎』 [第4版] (上) (下) 4・5・7・8・9・11・12章, (シーエービー出版), 2010年。
- (2) Rangarajan Sundaram, 『A First Course in Optimization Theory』 Chapter1・2・4・5・7・8 (Cambridge University Press), 1996.

統計的方法論

久保川達也, 国友直人 (2016) 『統計学』東京大学出版会 14章を除く。

定性的方法論

(1)

Saunders, M., Lewis, P., Thornhill, A., (2019), Research Methods for Business Students, Pearson Education Limited. ISBN-10: 1292208783

※KIMAP 学生は(1)の文献を参考にしてください。

(2)

◇テーマ	イントロダクション・社会研究方法の基礎
◇必読文献	・ Bernard, H. R. (2013), Social Research Methods: Qualitative and Quantitative Approaches, 2nd ed., Sage, Chs. 1-3. (特に Chapters 1-2)
◇参考文献	・ 戸田山和久『科学哲学の冒険ーサイエンスの目的と方法をさぐる』NHK ブックス。 ・ Bryman, A. (2021), Social Research Methods, Oxford UP, Ch. 2. ・ Flick, U. (2023), An Introduction to Qualitative Research, 7th ed.

◇テーマ	実証主義的パースペクティブ
◇必読文献	・ Adorno, T. W., Albritton, H., Dahrendorf, R., Harbermas, J., Pilot, H., Popper, K. (1969) Der Positivismusstreit in der Deutschen Soziologie, Hermann Luchterhad Verlag, GmbH. (城塚登・浜井修訳『社会科学の論理: ドイツ社会学における実証主義論争』河出書房新社、1979年、109-128頁。 ・ Hage, J. (1972) Techniques and Problems of Theory Construction in Sociology, John Wiley & Sons. (小松陽一・野中郁次郎訳『理論構築の方法』白桃書房、1978年。) 絶版につき配布、第1-4章。
◇参考文献	・ 富永健一 (1993) 『現代の社会学者: 現代社会科学における実証主義と理念主義』講談社学術文庫。 ・ Chalmers, A. F. (2013) What is This Thing Called Science? [third edition], University of Queensland Press. (高田紀代志・佐野正博訳『改訂新版 科学論の展開』、2013年) ・ 服部泰宏(2023) 『組織行動論の考え方・使い方: 第2版』有斐閣. 第3章, 第4章, 第5章, 第6章。

◇テーマ	解釈主義的パースペクティブ
◇必読文献	・ M. ウェーバー(1998) 『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』岩波文庫 ・ C. ギャーツ(1987) 『文化の解釈学 I』岩波現代選書, 3-56頁
◇参考文献	・ 三苦利幸(2009) 『「価値自由」論の系譜: 戦後ヴェーバー研究の展開と現代』『社会

	文化研究所紀要』第 63 号, pp. 19-42.
--	----------------------------

◇テーマ	構造主義的パースペクティブ
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・橋爪大三郎(1988)『はじめての構造主義』講談社現代新書。 ・渡辺二郎(1994)『構造と解釈』ちくま学芸文庫。第 1、2、3、5 章。 ・内田樹(2002)『寝ながら学べる構造主義』文春新書。
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・M フーコー(1977)『監獄の誕生』新潮社。 ・M フーコー(2000)『言葉と物』新潮社。 ・M フーコー(2006)『知の考古学』河出書房新社。

◇テーマ	事例研究方法論 1
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・Eisenhardt, K. M. (1989). Building theories from case study research. <i>Academy of Management Review</i>, 14(4), 532-550. ・Siggelkow, N. (2007). Persuasion with case studies. <i>Academy of Management Journal</i>, 50(1), 20-24.
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・R. イン (1995)『ケース・スタディの方法』千倉書房。 ・高橋広行・徳山美津恵・吉田満梨 (2015)『ケースで学ぶケーススタディ』同文館出版。 ・栗木契 (2021)「事例に学ぶ知識獲得の有用性」『プレ MBA の知的武装』中央経済社、第 3 章。

◇テーマ	事例研究方法論 2
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・Plowman, D. A., Baker, L. T., Beck, T. E., Kulkarni, M., Solansky, S. T., & Travis, D. V. (2007). Radical change accidentally: The emergence and amplification of small change. <i>Academy of Management Journal</i>, 50(3), 515-543. ・Gilbert, C. G. (2005). Unbundling the structure of inertia: Resource versus routine rigidity. <i>Academy of Management Journal</i>, 48(5), 741-763.
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・井上達彦(2014)『ブラックスワンの経営学』日経 BP 社、第 2 章・第 3 章。 ・R. イン (1995)『ケース・スタディの方法』千倉書房。 ・G. アリソン・F. ゼリコウ(2016)『決定の本質・第 2 版』日経 BP クラシックス。 ・Langley, A. (1999). Strategies for theorizing from process data. <i>Academy of Management Review</i>, 24(4), 691-710.

◇テーマ	歴史的方法論 1
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・カルロ・マリア・チポツラ (2001)『経済史への招待：歴史学と経済学のはざまへ』国文社、第 1-6 章。
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・E. H. カー(1962)『歴史とは何か』岩波書店 (岩波新書)。

◇テーマ	歴史的方法論 2
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・アルフレッド D. チャンドラー, Jr. (著), 有賀裕子 (訳)『組織は戦略に従う』, ダイヤモンド社, 2004 (原著: Alfred D. Chandler, Jr., <i>Strategy and Structure</i>, 1962.), 序, 第 1 章。 ・アルフレッド D. チャンドラー, Jr. (著), 鳥羽欽一郎, 小林袈裟治 (訳)『経営者の時代: アメリカ産業における近代企業の成立』, 東洋経済新報社, 1979 (原著: Alfred

	<p>D. Chandler, Jr., <i>Visible Hand: The Managerial Revolution in American Business</i>, Berknap Pr.,1970), 序論。</p> <p>・ Philip Scranton and Patrick Friedenson, <i>Reimagining Business History</i>, Johns Hopkins UP, 2013 (フィリップ・スクラントン, パトリック・フリダンソン『経営史の再構築』蒼天社出版,2017年), 第I部。</p>
◇参考文献	<p>・ 黒沢隆文・久野愛(2018)「経営史研究の方法・課題・存在意義—英語文献における研究動向と論争— (上)・(下)」経営史学、第53巻第2号、第53巻第3号。</p>

◇テーマ	グラウンデッドセオリー・アプローチ
◇必読文献	<p>・ K. シャーマズ(2020)『グラウンデッド・セオリーの構築』[第2版]ナカニシヤ出版</p> <p>・ B.G. グレイザー・A.L. ストラウス(1996)『データ対話型理論の発見：調査からいかに理論をうみだすか』新曜社</p>
◇参考文献	<p>・ Apramian, T., Cristancho, S., Watling, C., & Lingard, L. (2017) “ (Re)Grounding grounded theory: a close reading of theory in four schools,” <i>Qualitative Research</i>, 17(4), 359–376.</p> <p>・ A. ストラウス・J. コービン(2012)『質的研究の基礎：グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順(第3版) 医学書院</p>

◇テーマ	サーベイ・リサーチ方法論
◇必読文献	<p>・ 盛山和夫 (2004)『社会調査法入門』有斐閣ブックス,ISBN:978-4641183056, 4章 (p.61-77), 5章 (p.79-94), 7章 (p.115-139)</p> <p>・ 田村正紀 (2006)『リサーチ・デザイン』白桃書房, ISBN: 978-4561264576, 2章 (p.25-48)</p>
◇参考文献	<p>・ 伊藤公一朗 (2018)『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書, ISBN:978-4334039868</p> <p>・ Grove, R.M., Flower, F.J.Jr., Couper, M.P. Lepkowski, J.M., Singer. E., & Tourangeau, R. (2009). <i>Survey Methodology</i> (2nd ed.). Hoboken, NJ: John Wiley & Sons. ISBN:978-0470465462</p>

◇テーマ	フィールド・リサーチ方法論
◇必読文献	<p>・ Greenwood, D. “Introduction to Action Research, <i>Social Research for Social Change</i>, 2nd ed., SAGE Publications, 2007.の pp. 3-34, 76-88.</p> <p>・ 三矢裕 (2007)「日次決算導入がもたらす組織行動への影響：株式会社ドンクにおけるアクションリサーチ」『原価計算研究』第31巻第1号、1-13頁。</p>
◇参考文献	<p>・ 三矢裕 (2002)「管理会計システムの導入研究の方法論：トライアングレーションとアクションリサーチの有効性」『会計』第161巻第5号、96-109頁。</p> <p>・ Kaplan, R. S. (1998), <i>Innovation Action Research: Creating New Management Theory and Practice</i>, <i>Journal of Management Accounting Research</i>, 10(1) pp.89-118.</p>

◇テーマ	定性的研究と研究論文
◇必読文献	<p>・ Julie Battilana and Silvia Dorado. (2010), “Building Sustainable Hybrid Organizations: The Case of Commercial Microfinance Organizations”, <i>Academy of Management Journal</i>,</p>

	Vol. 53, No. 6, pp. 1419-1440.
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none">・ Bryman, A. (2016), Social Research Methods, 5th ed., Oxford University Press, Chapter17.・ デンジン&リンカン(2006)『質的研究ハンドブック』(第1～3巻)北大路書房。